

# 麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 一麻生鳥のさえずり公園一

第44号 2015年5月31日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者；間野 洋 編集者；木村 信夫

## 平成27年度を迎えて

活動の主な目標

会長 間野 洋

昨年度は当会設立以来13年目の年でしたが、各分科会活動、各種イベント等の開催も事故もなく無事終了しました。会員の皆様のご協力に感謝致します。

新年度を迎え4月25日、第13回通常総会が開催され、役員改選時期ではありませんでしたが大学生幹事を1名選出し、承認を得ました。今後1年間、この体制で活動を進めていきます。

今年度の各分科会の活動、各種イベントの主な目標を以下に述べます。なお、新企画があれば、その都度幹事会で検討します。

### 1. 分科会活動

#### 1) 森づくり分科会

① 麻生区の花ヤマユリの植栽：昨年度は球根25球を植栽した。現在2ヶ所で31株が発芽している。今年度以降、毎年20球程度、適正地に植栽する予定。

② 椎茸栽培：昨年度植菌したクヌギのホダ木34本を6月6日に本伏せ予定。今年度以降も順次ホダ木を増やしていく。

③ 「鶯のお宿」のアズマネササの開花を5月13日に確認(写真)。ササ類の開花は40年、60年周期で起こり、アズマネザサ林の



アズマネザサの開花(雄しべが垂れている)

全般に及んでいる。開花すればすべて枯死するので、今後の対応を10月末までに考える。

#### 2) 畑の管理分科会

作付けの種類は昨年度同様、里芋・のらぼう菜となる。里芋は5月13日までに約250個植え付けた(昨年度は140個)。

#### 3) 施設・工作分科会

今年度は電気ドリル購入予定。会計の残高を勘案しながら大型脚立の購入を検討する。

#### 4) 広報分科会

3年来の懸案事項であるホームページを立ち上げることが第一目標である。

### 2. イベント

#### 1) 西生田小学校 総合的学習への協力

① 3年生 森の四季の観察会：春は5月27日に終了。夏・秋・冬の日程は未定。

② 5年生 森での環境学習 日程は未定であるが1日を予定している。

#### 2) 多摩美プレーパーク

6月、10月、1月、2月の4回を予定。

#### 3) 星の観測会への協力

8月、2月を予定しているが日程は未定。

#### 4) 第15回 植樹祭&収穫祭

11月15日(日)に予定しているが、プロパンガスの充填が現時点で不可能のため、今後開催が危ぶまれている。

#### 5) 花と緑の交流会

11月29日(日)、中原市民館の予定。

以上、今年度の活動も楽しく、安全に行いたいと思いますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

## ◆ かながわ里地里山シンポジウムで、当会学生会員が活動をアピール

### ●意義深いシンポジウム 会長 間野 洋

平成 27 年 1 月 24 日「未来に引き継ごう！私たちの里地里山」のテーマで、神奈川県主催の「かながわ里地里山シンポジウム」が新百合 21 ホールで開催され、当会学生会員の松本、大塚両氏が参画し、活躍しました。

まず、主催者側から古川県副知事、共催者側から福田川崎市長の挨拶があり、続いて県環境農政局緑政部より、里地里山の保全等の取組みと活動団体の紹介がありました。続いて浜美枝氏による基調講演で、テーマは「美しい暮らしを通した里地里山の魅力」。浜氏は箱根の古民家に住み、「三つのしょく」を実践されている話、古民家、古い生活工芸品、昔から伝わる食などを訪ね、日本中を歩かれた話など、楽しく聞かせてもらいました。

里地里山での活動発表は 4 事例で、松本氏は「40 年間放置されてきた雑木林の萌芽更新」を報告（写真左）。研究のフィールドは明治大学黒川農場、結果は切り株が高いほど萌芽する枝が多いとのことでした。最後に「県民・企業・大学等の参加を広げ、保全活動を継続させるためには」のテーマでパネルディスカッションが行われ、大塚氏は堂々のパネラー振りでした（写真右）。当会会員も 7 名出席し、意義あるシンポジウムでした。

### ●里山の研究の発表をして

明治大学大学院 松本 薫

「平成 26 年度かながわ里地里山シンポジウム」は新百合ヶ丘で開催され、近くの黒川農場で里山の研究を行っている明治大学に、学生による講演の依頼がきました。講演を引き受けたものの、発表経験もなく不安でした。発表内容は大方決まっていたのですが、いかに分かりやすく、そして興味を持ってもらえる



かを考えました。多くの指摘をいただいた倉本先生をはじめ、たまたま研究室にいた後輩の学生たち、感性面から意見をくれた家族には感謝しています。

発表では緊張もありましたが、非常に気持ち良く行えました。また当日の電車の中で浜美枝さんを Wikipedia で調べたことが功を奏し、リラックスした雰囲気では話ができました（私と同じ干支という話題で、女性の年齢を口にするという不敬を働きながらも、その後のお話で使っていたいただいた浜さんの包容力に感激しました）。

しかし、僕が最も感激したのは、発表後、間野さんたちにお褒めの言葉をいただいたことです。多摩美の森の会での活動や関わりは、僕の中で大きなモチベーションになっていることに気づかされました。今後も積極的な関わりから何かを得ていきたいと思います。

### ●パネルディスカッションに参加して

明治大学農学部 大塚 勇哉

里山ボランティアに参加しているだけの一介の学生の私が、ボランティア団体の会長をはじめ、小田急電鉄の広報部長や横浜国立大学の教授、さらにはボンドガールこと浜美枝さんと同じ壇上で議論を交わすというのですから、非常にプレッシャーを感じました。

ディスカッションでは、多摩美の森の会の活動内容を交えつつ、参加するようになった経過や、作業を行って感じたこと、里山保全団体が抱えている問題などについて、私なりの考えを述べました。おおむね私なりに伝えられたと思いますが、唯一心残りは、私自身の気持ちを言葉にして話すことができなかったことです。難しいところもあるけれど、いろいろな人と関わり、作業をすることが楽しいと感じていることを、若者の代表として伝えられれば、パネルディスカッションもより良いものになったのかなと感じます。

反省点もありましたが、貴重な経験ができました。これからも多摩美の森の会の活動を微力ながら続けていきたいと思っています。

## ●2015 里山フォーラム in 麻生の報告

中谷一郎

3月7日(土)麻生市民館に225名余の方々が集い、充実した内容で開催されました。

第1部は、オープニング演奏夏菟太鼓なつかりに始まり、多田区長のご挨拶。続いて小学生の「私たちが身近な自然や畑から学んだこと」の発表は、西生田小5年生「多摩美の森の体験活動」、百合ヶ丘小給食委員会「はじめて食べた、僕たちの町の万福寺にんじん」、東柿生小6年生「里山をみつめて」、南百合ヶ丘小4年生「やすらぎの森 研究レポート」、金程小5年生「育て・わたしたちのお米」で、すべて独自性があり素晴らしい発表でした。

とくに西生田小の当森での環境学習は当会の協力で長年継続しており、この体験を通じ、地球温暖化を防ぐためにも身近にある里山を大切に守りたいという子供たちの意気込みを感じ、活動の励みになりました(写真)。



第2部は猪瀬麻生市民館長のご挨拶で開始。パネルセッション「足元の自然に気付く繋ぐ」は、里地里山ナチュラリスト育成講座とあさお里山こどもクラブの指導をされた堂前雅史・高橋英・高柳芳恵・石井よし子各氏により、身近な自然の話題がいっぱいでした。

とくに西生田小の多摩美の森での体験学習を毎回指導して下さる高橋英氏(自然観察指導員)のお話は、新百合丘駅からすぐ近くの「こやのさ緑道」は開発され40年だそうですが、植栽樹アカシデ・シラカシなどの中にどっこい自生種である生物たち、キンラン・ギンラン・ムラサキシキブなどが逞しく生きており、それを管理する人達が今いないとのことで、身につまされる内容でした。

次に展示30団体余によるトークリレーがあり、交流タイム、私たちのホツとする風景写真展表彰式、地元農産物の紹介があり、和やかな中に意義あるフォーラムでした。

## ■今年の「のらぼう菜」報告 中谷一郎

昨年10月下旬に播いた種は今年の4月にグリーンと急成長し青々と茂り、5月中旬までに会員皆で4~5回摘み取りを行い、試食しています。大変美味です。

今、里山風にのらぼうの花が咲き乱れており、5月27日には西生田小3年生が春の森の観察会に来るので、見せられます。6月下旬にはよく実った莢から採種し、4代目の種を10月初旬に播く予定です。

5月8日の新聞に「のらぼう菜 特産野菜に」の記事が出ていました。川崎市が明治大学や県(農業技術センター)との共同研究で、品質の向上と安定を図る栽培技術を確立し、特産化しようという動きです。福田紀彦市長は「おいしいのらぼう菜を提供し、地域特産物として普及させたい」。多摩区菅特産だけでなく川崎ブランドになるので、当森でも負けないのらぼう菜を育てたいと思います。

## ■笹林を護る名案が欲しい 伊丹伸行

「鶯のお宿」のアズマネザサ(笹林)の茂みは夏になると葛やカナムグラなどのツル植物が繁茂し、網目状に覆いかぶさり、笹の立ち上がりを妨げ、笹の葉への陽光の差し込みを妨げ、冬になるとそれが枯れて見苦しい。

そこで、6年前から冬場に枯れたツル類を取り除く作業を行ってきた。方法は二つあり、一つは区画を決め、笹とツルのすべてを刈り取る方法。もう一つはツルをこまめに取り除き、押しつぶされていた笹を立ち上がらせ、間に詰まっている枯れた笹を取り除く方法である。ともに笹林に隙間をつくり、萌芽更新による再生を図るものである。

ところが夏が来ると残ったツルの根から新しいツルが伸びて、笹を再び覆ってしまう。最近ではできた隙間にブタクサが生え、笹より早く成長して妨害してきている。

今年は、今までの作業で笹林に空隙が出来、入りやすくなってきたので、夏場にブタクサとツル類を刈り、冬場に除去するツル類の量を減らしてはどうかと考えている。何か他に名案があれば、提案いただきたい。



## ■私の部屋 スペイン一人旅と庭園

井上正樹

昨2014年10月4日から15日までビルバオ、ゲルニカ、マドリッド、トレド、コルドバ、セビーリャ、グラナダ、バレンシア、バルセロナの9都市を巡ってきた。宿はブッキングコムで予約、列車はユーレイルパス5日間と高速バス利用。ユーレイルパス以外はすべて現地で座席の予約をした。

詳細は88頁にわたる「スペイン旅行一人旅」をご参考にされたい。ここではスペイン流の中庭パティオや、アルハンブラ宮殿の庭園や街路樹の手入れなどについて述べます。

### ●白い小路に花々が彩を添えるパティオ

写真はコルドバのメスキータの北側に広がる、迷路のように入り組んだユダヤ人街。パティオは、様々な植物を配し、食事やくつろぎの空間となっている。



探し当てたこのアングル ギターを奏でる男と筆者

### ●アルハンブラ宮殿の庭園

ヘネラリフェとアセキアの中庭は14世紀に建設されたナスル朝の別荘。セラ・ネバダ山脈の雪解け水利用した水路や噴水が設けられた『水の宮殿』だ。



剪定された木を背に筆者 ナスル朝の夏の別荘と水路

### ●街路樹剪定作業（バルセロナのコロン通り）

高所作業車で剪定作業と人の通行を区別するバリケードの設置までは日本と同じだが、警備員は一人もいなかった。日本の労働安全衛生法が交通事故を防ぎ、第三者に危害を及ぼさないための法であると改めて感じた。

## ●今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

2014年度の第13回通常総会が4月25日（土）に無事終了しました。今年度も5月には西生田小3年生の春の森の観察学習が始まります。西生田小は創立140周年記念の年に当たるそうで、この長き伝統にふさわしく、継続性を大事に、子供たちに多摩美の森を知ってもらい、少しでも理解を深めてもらうよう、努力したいと思います。皆でゆったりと取り組み、将来に繋がればと思います。

6月6日（土）幹事会、アズマネザサの保護対策、間伐、畑の草取り

6月20日（土）多摩美プレーパーク

6月21日（日）里芋畑草取り、樹木手入れ

7月4日（土）幹事会、のらぼう菜の採種

7月19日（日）樹木の手入れ、草刈り

7月29日（水）中学生のチャレボラの受け入れ（川崎市公園緑地協会主催）

8月1日（土）幹事会、里芋畑の散水、追肥、オーロラ天文台 夏の天体観測予定

8月16日（日）下の畑の整備、草刈り、清掃

8月26日（水）西生田小3年生 夏の多摩美の森の観察学習予定

9月5日（土）幹事会、里芋畑草取り、追肥

9月20日（日）枯れ枝の集積、草刈り、清掃

この間補助作業日は第2、第4水曜日です。6月～9月の作業時間は9～11時です。

★会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

●麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。  
<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/000028128.html>

◆皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com